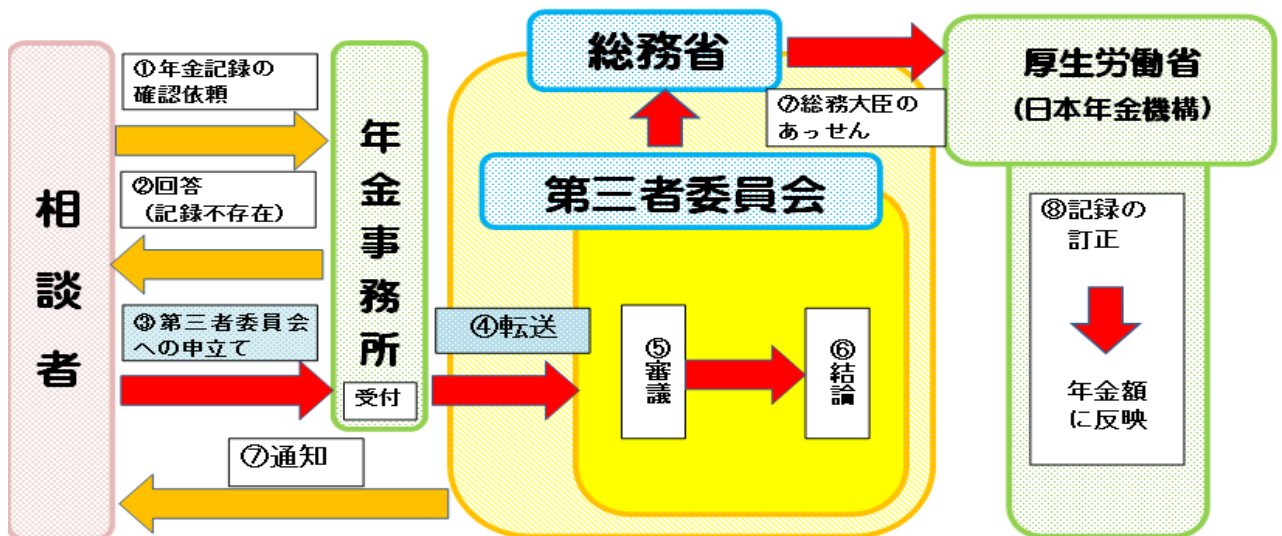


年金記録確認沖縄地方第三者委員会の活動の状況

平成25年5月16日

1 年金記録確認第三者委員会とは

- 年金記録問題への対応の一つとして、年金記録の訂正の申立てについて国民の立場に立って公正な判断を示すことを任務とし、平成19年6月、総務省に臨時の機関として緊急に設置された審議会
- 総務大臣は、第三者委員会の判断結果に沿って、厚生労働大臣に対し、年金記録の訂正をあっせん
- 中央委員会(本省)及び全国50か所(注)に地方委員会が置かれ、平成25年3月末現在、全国で608人の委員が任命され、年金記録の確認の申立てについて審議 (注)平成25年5月16日、ブロック単位(全国9か所)に集約



【年金記録確認沖縄地方第三者委員会について】

- 総務省の地方支分部局である沖縄行政評価事務所に設置
- 委員長: 竹下 勇夫氏(元沖縄弁護士会会長)
- 委員数: 5人(平成25年3月末現在。最大時5人)
- 平成19年7月17日に第1回委員会を開催。
以降、これまでの約5年10か月間で延べ153回の委員会を開催

※ 本ページ以降のデータは、平成25年3月31日現在の速報値で、今後、修正があり得ます。

2 沖縄県内における記録訂正申立て受付件数

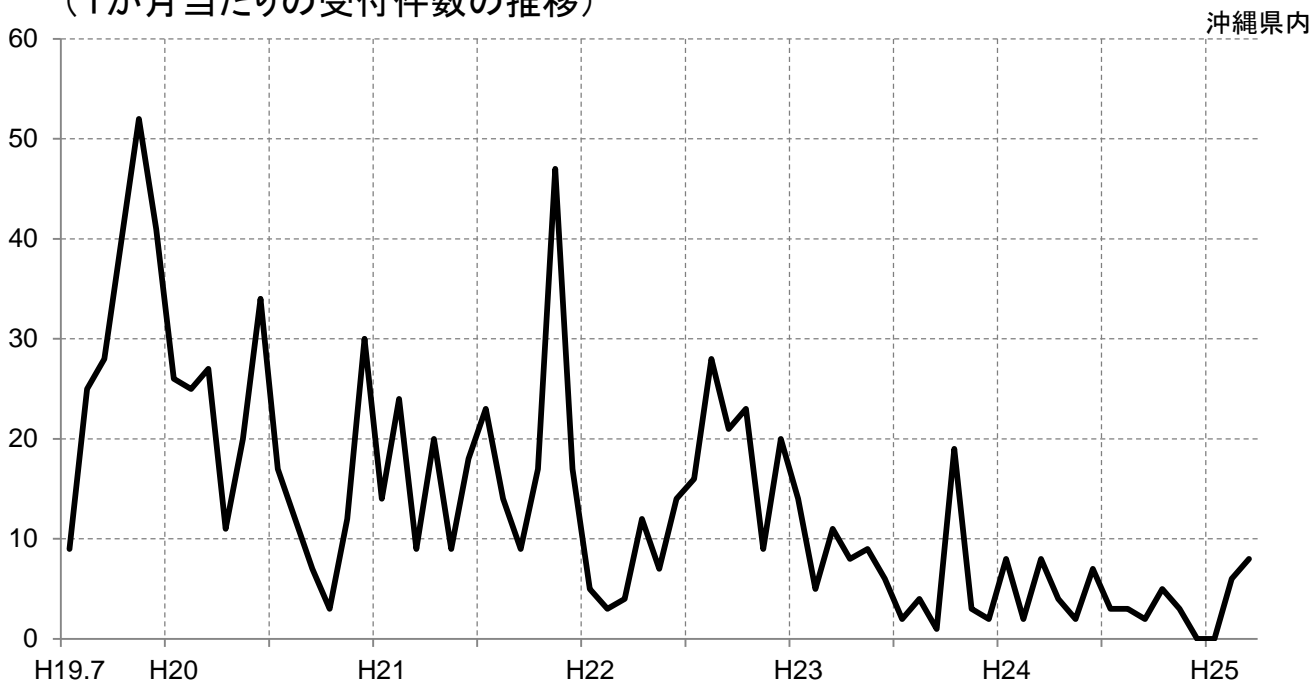
- 沖縄県内の日本年金機構の年金事務所で受け付けた記録訂正申立ての件数は、累計で988件
- 平成24年度の受付件数(43件)はピーク時の19年度(272件)の約8割減

(年度別内訳)

年度	19年度 (19.7~)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
受付件数 (20年度比)	272	221 (100)	201 (91)	180 (81)	71 (32)	43 (19)

申立て受付件数の累計: 988件

(1か月当たりの受付件数の推移)



【参考】
日本年金機構
(旧社会保険庁)
の取組

H19.12~20.10
ねんきん特別便
発送

H21.4~ ねんきん定期便発送

H22.9 脱退手当金についてのお知らせ発送

※ 総務大臣に対する年金記録訂正の申立ては、日本年金機構の年金事務所で受け付けている。

※ 日本年金機構の年金事務所で受け付けた申立てのうち、申立ての内容が定型的で一定の条件に当てはまるもの等については、総務省(第三者委員会)に送付されず、日本年金機構段階で処理(記録訂正等)される。

3 沖縄地方第三者委員会における申立ての処理状況等

○ 発足以来、沖縄地方第三者委員会における要処理件数(注)の累計は841件。うち、839件を処理

(上記のほか、日本年金機構(沖縄事務センター)段階で137件を処理)

(注) 要処理件数: 沖縄地方第三者委員会において調査・審議を要することとなった件数

要処理件数 = 受付件数 - 日本年金機構段階処理件数 - 他の地方第三者委員会間との移送件数等
 (841件) (988件) (137件) (10件)

○ 要処理件数に対する処理率は99.8%

○ このうち、沖縄地方第三者委員会の審議を経て、総務大臣から厚生労働大臣に対して記録訂正をあっせんした件数は342件(41.6%)

(記録訂正をあっせんした342件は、処理件数839件から本人取下げ等17件を除いた822件の41.6%に当たる)

(上記のほか、日本年金機構(沖縄事務センター)段階で70件を記録訂正)

沖縄地方第三者委員会における年度別／累計の要処理件数、処理件数等

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (速報値)
当該年度の新規の 要処理件数 (累計①)	185 (185)	242 (427)	161 (588)	174 (762)	56 (818)	23 (841)
当該年度の処理件数 (累計②)	82 (82)	288 (370)	190 (560)	144 (704)	99 (803)	36 (839)
うち記録訂正が必要と判断	23 (23)	110 (133)	105 (238)	54 (292)	36 (328)	14 (342)
うち記録訂正が不要と判断	58 (58)	172 (230)	83 (313)	86 (399)	61 (460)	20 (480)
うち本人取下げ等	1 (1)	6 (7)	2 (9)	4 (13)	2 (15)	2 (17)
当該年度末時点の 処理率(累計②／累計①)	44.3%	86.7%	95.2%	92.4%	98.2%	99.8%

()の数値は当該年度末の累計件数である

4 沖縄地方第三者委員会が処理した事案の内訳

処理件数 (累計)	うち、厚生年金事案	うち、国民年金事案
839 (100%)	490 (58%)	349 (42%)

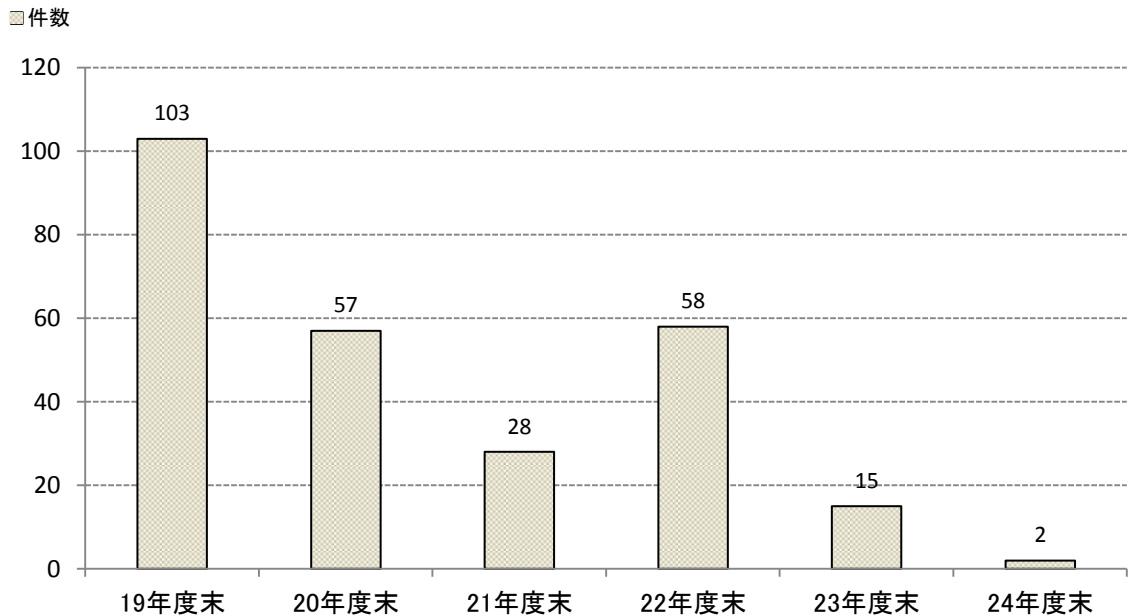
5 各年度末時点の沖縄地方第三者委員会における要処理残件数^(注)の推移

(注) 要処理残件数 = 要処理件数 - 第三者委員会での処理件数

○ 要処理残件数は2件まで減少

平成19年度末(103件)の2%まで減少

→いわゆる「処理着手待ち」となっている事案はほぼなくなっている状態



6 記録訂正が必要と判断した事例(主なもの)

国民年金の事例

<申立内容(概要)>【家計簿事案】

私は、申立期間(昭和58年10月～59年3月)について、国民年金保険料を納付していたにもかかわらず、当該期間の保険料が未納とされている。

<審議内容>

- ① 申立人は、申立期間を除き国民年金加入期間の保険料を全て納付済み。
- ② 申立人の所持する当時の家計簿には、申立期間を含め、当時納付したとする保険料額の記載があり、当時の保険料額と一致していることなどから保険料を納付していたと推認される。

※ 以上のことから、記録訂正が必要であるとしてあつせん。→ **6か月の記録が回復**

<申立内容(概要)>【短期・配偶者納付済事案】

私は、国民年金制度の発足当初から夫婦で加入し、一緒に国民年金保険料を納付してきたにもかかわらず、申立期間(昭和36年10月～37年3月)について、私だけが未納とされている。

<審議内容>

- ① 申立期間は6か月と短期間であり、申立期間前後の保険料は納付済み。
- ② 申立人は、申立期間を除き国民年金制度発足当初からの加入期間の保険料を全て納付している上、一緒に納付したとする配偶者の加入期間中の保険料は全て納付済み。
- ③ 申立人の国民年金手帳記号番号は配偶者と連番で払い出されている上、申立期間前後の保険料は夫婦同一日に納付されていることが確認できたことなどから、保険料を納付していたと推認される。

※ 以上のことから、記録訂正が必要であるとしてあつせん。→ **6か月の記録が回復**

厚生年金の事例

<申立内容(概要)>【取得日相違事案】

私は、昭和25年4月1日にA社に入社し勤務していたにもかかわらず、同年8月1日に厚生年金保険に加入した記録となっており、申立期間(昭和25年4月1日～同年8月1日)の加入記録が無い。

<審議内容>

- ① A社が保管する人事関係資料等により、申立人が申立期間にA社に勤務していたことが確認できる。
- ② 同僚の供述等により、申立人と同じ経歴で同期に入社した複数の者の名前が判明。
- ③ 同期入社と同僚は、入社日に厚生年金保険に加入していることが確認できることから、申立人についても入社と同時に厚生年金保険に加入し、申立期間に係る厚生年金保険料を事業主により控除されていたと推認される。

※ 以上のことから、記録訂正が必要であるとしてあつせん。→ **4か月の記録が回復**

<申立内容(概要)>【全部記録なし事案】

私は、申立期間(昭和43年8月5日～45年4月1日)について、B社に勤務していたにもかかわらず、当該期間の加入記録が無い。

<審議内容>

- ① 同僚の供述等により、申立人が申立期間にB社に勤務していたことが認められる。
- ② 当時の従業員数の調査を行ったところ、当該従業員数と社会保険事務所(当時)の記録上の厚生年金保険の被保険者数がおおむね一致することが判明。
- ③ 当時B社においては、ほぼ全ての従業員を厚生年金保険に加入させていたと考えられることから、申立人についても厚生年金保険に加入し、申立期間に係る厚生年金保険料を事業主により控除されていたと推認される。

※ 以上のことから、記録訂正が必要であるとしてあつせん。→ **1年8か月の記録が回復**